



かんせいちゅうがっこう 寛政中学校だより

だいごう
第1号

れいわねんがつにちかんせいちゅうがっこう
令和6年4月19日 寛政中学校

『未来への第一歩』

こうちやうなかむらまきかず
校長 中村 雅一

ちびまる子ちゃんの声を 34年にわたって演じていた声優の TARAKO さんが先月、病気のため亡くなりました。昨年度の修了式では、原作者のさくらももこさん(故人)の高校2年生の頃のお話をしました。その時の話に加筆して、「夢を叶える」とはどういうことか、『つながる読書』(ちくまプリマー新書)に書かれている、さくらももことエッセイについての文章より、再度、彼女の言葉を紹介しながらお伝えしたいと思います。

さくらさんは漫画家になりたいという夢を持っていたものの、思うだけで毎日、毎日、ぐうたらした生活をしていました。そんな彼女が、本気で漫画家になるために努力しようと心に決めたのは、高校2年生の3学期が終わろうとしている時期でした。彼女は、ただ漫画家になりたいという、「夢」というより「妄想」から一気に自覚めたのは、自宅お風呂の湯船に浮かっていた時のことだったそうです。どうやって、夢から覚め本気になったのか、彼女の言葉からそのヒントを読み取れるといいなあ、と思って紹介します。彼女の言葉です。

「そんなことよりも、もう3学期が終わるというのに、私は何もしていない事に気づき、ハツとした。

高校2年生の3学期が終わるということは、高校に入って2年間分の月日が終わるということだ。

私はこの2年間というもの、何もしない青春を本当に送ってしまった。

今までは、何もしない青春でいいじゃないかと思っていたが、高校生活は残りあと1年しかない。

私は、小さい頃からずっと“高校生になったら、漫画を描いて投稿しよう”と思っていた。

高校に入る直前の、中学3年生のときまでそう思っていた。

なのに、高校に入ったとたん一気に志を忘れ、何もせずにヘラヘラと毎日を過ごし、あっという間に

2年間も過ぎてしまったなんて、これじゃ、あんまりお粗末すぎる、うっかりしていたら残り1年も、

何もしないまま過ごしてしまうところだった。

気がついてよかった。私は漫画家になりたい。高校を卒業する前に、漫画家になれるかどうか試してみたい。

それをやらなきゃ、私の高校生活はまったく意味がない。

片思いの終わりと共に、自分自身への挑戦がやってきた。もうくだらない夢を見ている場合じゃない。

まずは明日、紙とペンを買いに文房具屋へ行くべきだろう。近所の文房具屋が、将来への第一歩だ。」

さくらさんは、はじめは家族にも、「漫画家になって、なれっこない」と馬鹿にされていたそうです。実際に最初に雑誌に投稿した正統派の少女漫画は、まったく評価されませんでした。しかし、それでもさくらさんは漫画を描きました。必死に描き続けました。だらけてばかりいたさくらさんとは、もう別の人格、別人になったということですね。もう一度、さくらももこの言葉です。

「漫画家なんてもの、目指してもムダだ、やめた方がいいと、家族以外の親戚の人にまで言われたりしたが、

大きなお世話だった。素直にやめたとしても、誰も私の人生の責任なんてとってくれない。

他人の人生じゃない、私の人生なんだ、と誰かに無理だと言われるたびに強く思った。」

どうでしょうか。親や親戚といえども、自分の人生の責任を取ってくれるわけではありません。当たり前のことですが、自分の将来の夢を親が代わりに叶えてくれるわけでもないです。逆に言えば、誰も自分の夢を諦めさせることはできない、ということです。さあ、皆さんは、今日、今、どんな行動を起こしますか。

さくらさんは、近所の文房具屋に「紙とペン」を買いに行きました。まずは第一歩を踏み出してくださいね。

おわりに、次の言葉は広く知られているので、聞いたことがあるかもしれませんが、紹介します。

「**考えは言葉となり、言葉は行動となり、行動は習慣となり、習慣は人格となり、人格は運命となる。**」

つまり、夢を持つだけではダメで、ぼんやりとした考えであっても、その考えを明確にするために言葉にします。この言葉を発する、あるいは文字にして書くことがしっかりした意思となり、次に行動を起こします。その行動が積み重なると、それが当たり前となり、習慣になります。すると、その習慣が束になって人格を作り出し、人格が運命を引き寄せるということです。

ですから、人格とは、持って生まれたものではなく、行動習慣の束だということなのでしょう。そう考えると、「自分」は探すものではなく、作るものなのでしょう。そして、良い考え、良い行動、良い習慣こそが、良い運命を招く、ということなのだと思えます。

さくらさんが高校2年生の頃、ぼんやりとした夢から、有名な漫画家になる運命を引き寄せたのは、まさにこの法則の通りではないでしょうか。

それでは、生徒の皆さん、2024年度、新たな気持ちで新しい自分への挑戦をあきらめずに、リスタートです。保護者、地域の皆さま、新年度の寛政中学校の子どもたちを引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

新入生54名が仲間に ~令和6年度入学式~

4月8日曜日、満開の桜に見守られながら入学式が行われました。これから始まる中学校生活に向けての大きな期待とともに、緊張や不安もあったことと思いますが、全員が立派な態度で臨むことができました。

「入学のことば」では、代表者さんが新入生を代表して、中学生になって努力したいことを1年生らしくのびのびと伝えました。

式後の保護者の方へのお話ですが、式の中には生徒のみなさんの良さがあふれていました。まずは「返事の素晴らしさ」です。担任の先生の呼名に大きな声で返事ができていました。返事やあいさつはコミュニケーションの第一歩目だと思います。中学校での3年間で自分の思いをしっかりと相手に伝えることができるコミュニケーション力をさらに身につけていきましょう。

もう一つは「自分で判断して行動する力」です。ぶっつけ本番で行う入学式では、他人任せの人が多く式の流れが止まりがちです。今回の入学式では一人ひとりが自ら考え行動することができていたので、流れがとてもスムーズでした。指示を待って行動するのではなく、自ら考え行動する力も中学校の生活の中で、磨いてほしい力のひとつです。

わずかな時間の中でも54名のみなさんに大きな力を感じることができました。これからの様々な取組を通じて、素晴らしい集団に成長していく姿をイメージすることができました。とても楽しみです。

地域の皆様、PTA役員・実行委員の皆様におかれましては、ご多用のところご臨席を賜りまして、ありがとうございます。今後ともご支援をお願いいたします。

ねんせい 2年生になって

例年になく暖かな日が続く、春の訪れとともに、69名の生徒は2年生に進級しました。それぞれが、昨年度の反省を踏まえて、心機一転、行動して、この1年間を充実したものにしたいです。

ここで、2名の生徒の今年度にかかる気持ちを紹介します。

・僕は、2年生からは、勉強を特に頑張りたいと思います。1年生の頃は、授業の内容が理解できず、ふざけてしまうことがありました。しかし、2年生からは気を引き締めて、提出物をしっかりと提出することや、授業の内容を聞き、メモを取るなど細かなことから取り組んでいきたいです。先輩としての自覚をもち、勉強や行事なども頑張っていきたいです。

・自分は、クラス全体をまとめ、引っ張っていくことが学級委員としての役割と思っています。昨年度も学級委員でしたが、十分に活動したとは言えないと思っているので、リベンジしたいです。第2学年をより良くしようとするクラスや学年のみならず、ともに積極的に活動していきたいです。また、6月の校外学習に向けて、しおり作りやレクを考えるなど、自分の役割を

果たしていきたいです。部活も、積極的に取り組みたいです。

ねんせい 3年生になって

新年度を迎え、58名の生徒たちは3年生に進級し、いよいよ中学校最後の一年間がスタートしました。残された時間を大切にしながら、素敵な一年を過ごしてほしいと思います。

3年生を代表して、生徒会長の抱負を紹介させていただきます。

私が3年生になって達成したい目標は2つあります。

1つ目は、生徒会長としての活動です。選挙の時に掲げた公約を、任期のうちに、役員全員で実現したいと考えています。部活動や習い事とも両立しつつ、頑張っていきたいです。生徒会の活発な活動のためにも、全校生徒のみなさんも力を貸してください。

2つ目は、進路についてです。まだ私は卒業後の進路を決めていませんが、今後、自分が決めた進路に進むためにも、今のうちから成績を意識していきたいと考えています。そのためにも、日々の授業を大切に、家庭学習を習慣化させていきます。

そして私は、中学校生活最後の一年間を「妥協しない一年間」にしたいと考えています。その理由は、生徒会本部役員として校内環境の改善や、各種委員会とのコラボレーション、学校生活向上アンケートの実施など、取り組みたいことがたくさんあるためです。たった一年間では成し遂げられないほど、寛政中学校に深くかかわりたいと考えています。そうした活動やモチベーションが、私の今後の人生はもちろん、寛政中学校をより良くしていくことにもつながっていくと思うのです。

残り一年間、「妥協しない」ことができるよう頑張っていきます。

令和6年度の本校の職員です。よろしくお願いいたします。

校長：中村 雅一

副校長：高橋 一雄

★第1学年

学年主任：柳原 誠(数学科)

1組担任：永島 優也(理科)

2組担任：堤 千江里(美術科)

副担任：烏谷 翔子(国語科)

木村正宏(社会科)

養護教諭：佐藤 和恵

★第2学年

学年主任：浅田 良子(数学科)

1組担任：西川 孝太(保健体育科)

2組担任：高塚 結子(音楽科)

副担任：北井 照美(英語科)

近藤 嵩純(国語科・生徒指導専任)

大川 弘子(数学科)

★第3学年

学年主任・2組担任：水山 哲之介(社会科)

1組担任：小森 千秋(保健体育科)

副主任：瀬田川 祐子(英語科・教務主任)

副担任：手澤 彩(英語科・進路主任)

下大澤 光(理科)

鳥井 優一(国語科)

★個別支援学級担任

3・4組担任：文岡 由美 阿部 竜太

★

非常勤講師：渡邊 幸子(家庭科)

非常勤講師：戸田 実(技術科)

事務職員：箕輪 新一郎

技能職員：大庭 ゆかり

橋口 靖弘

学校司書：山下 由紀子

AET: Ada Rejinah Madarieta Manansala

スクールカウンセラー：池澤 千夏 SSW: 任 真弓加

空調監視員：吉澤 裕司 今野 優介

職員室業務アシスタント：坂内 美代

校内ハートフル支援員：松山 方里子

サポート非常勤：佐藤 賢治

留守番電話の設定について

本年度より、平日は完全下校時刻+1時間を電話対応の時間とさせていただきます。その後は留守番電話となりますので、業務時間へのご理解、ご協力のほど宜しくお願い致します。ご質問、ご相談等があるようでしたら、翌日にお掛け直してください。

どうぞご相談ください

特別支援コーディネーターとセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)相談窓口担当者を次のように決定いたしました。何かご相談があればお問い合わせください。

☎ 連絡先:045-511-0666 横浜市内立寛政中学校 担当者まで

特別支援コーディネーター

横浜市では「障がいのある子ども一人ひとりのニーズに応じた多様な学びの場による教育の充実」を実現するため、通常の学級に在籍していて、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症などの特別な教育支援を必要とする児童生徒に対して支援を行っています。担任への支援や校内委員会の推進役、関係機関との連絡役、保護者への窓口として各学校に特別支援コーディネーターを置いています。本校での担当は次の通りです。

- ・水山 哲之介(3年生学年主任・特別支援コーディネーター)
- ・近藤 高純(生徒指導専任教諭)

セクシュアル・ハラスメント相談窓口

横浜市は、各学校において、わいせつ行為やセクシュアル・ハラスメント防止のため、相談窓口を設置しています。本校での相談窓口担当者は次の通りです。

- 生徒 …佐藤 和恵(養護教諭)
- …近藤 高純(生徒指導専任教諭)
- 保護者 …高橋 一雄(副校長)
- …佐藤 和恵(養護教諭)

※教育総合相談センターの一般教育相談(電話671-3726~8)も、セクハラ相談窓口として利用できます。

5月の主な予定

5/2(木) 部活動保護者説明会・副教材集金・PTA総会
/9(木) 耳鼻科検診
/10(木) 進路説明会(2・3年)
/16(木) 眼科検診

/20(月) 教育実習開始
/27(月) 体育祭予行(午後)
/28(火) 体育祭準備(午後)
/29(水) 第63回体育祭